

68. 防衛省概算要求

2023年度の一般会計の概算要求は110兆円で22年度に次ぐ規模という。金額を示さない「事項要求」も多く、予算総額の膨張は必至といわれる。その内防衛省の概算要求は「5兆5947億円＋事項要求」（防衛省の「我が国の防衛と予算」令和5年度概算要求の概要、以下「防衛概算要求」と略す。38頁物）とある。防衛省のホームページで令和元年から4年の概算要求も見られるが、「＋事項要求」の例はなく今回が初めてである（昨年概算要求は5兆4797億円）。

「防衛概算要求」は、「令和5年度概算要求の考え方、Ⅰ 防衛関係費、Ⅱ 主要事項、Ⅲ 共通基盤」の構成。概算要求は、『「①概算要求基準で定められた要求・要望」（算出される額の範囲内で概算要求）とは別に「②予算編成過程における検討事項」（事項のみの要求）を要求。①はこれまでの延長線上にあるものとして行う防衛力整備事業を要求。②は「防衛力を5年以内に抜本的に強化する」ために必要な取組みを要求』との説明がある。つまり、GDP比2%（10兆円超）を5年以内に実現し防衛力を抜本的に強化するという予算要求の内+1%は、具体金額のない事項要求のみということである。国家安全保障戦略など3文書を改訂する予定の年末前には金額算定できない、ということらしい。5年で5兆円増なら1年で1兆円増の割合だが、予算編成で一気に1兆円積み上げるとい分りにくい手法になる。

令和5年度概算要求の考え方の最初に次のような「基本的な考え方」というのがある。

「我が国が直面する現実に向き合い、将来にわたり我が国を守り抜くため、以下のような考え方にに基づき防衛力を5年以内に抜本的に強化」するとして、「①我が国への侵攻そのものを抑止するため、**スタンド・オフ防衛能力**や**総合ミサイル防空能力**を強化 ②万一の抑止が破られた場合には、非対称な優勢を確保して相手を阻止・排除しうる**無人アセット防衛能力**や陸海空領域を含む**領域横断作戦能力**を強化。その際、迅速な意思決定のための**指揮統制・情報関連機能**を強化 ③迅速かつ粘り強く活動するため、**機動展開能力**や**持続性・強靱性**に必要な施策を重視（以下略）（赤字は原文に倣った）」とある。

これは、防衛力抜本的強化の項目内容であり、構成の「Ⅱ 主要事項」の項目でもある。以下幾つかの項目について記述したい。

最初の「スタンド・オフ防衛能力」については、「隊員の安全を可能な限り確保する観点から、**相手の脅威圏外からできる限り遠方において阻止**する能力を高め、**抑止力を強化**することが重要（赤字は原文に倣った）」との文章がまず冒頭にある。一見もっともらしいが、これは敵地にミサイルを打つ場合のことを言っている。敵のミサイルを瞬時に全滅させない限り、敵は当然反撃してくる。その反撃は最初にミサイルを打った所まで届かないとしても（特に鑑発型や空発型の場合）、日本国内の都市は幾らでも狙える。原発施設も狙える。そうなればミサイルの打ち合いとなり戦争そのものになる。抑止力を強化するともあるが、抑止力に本当になるのだろうか。このようなスタンド・オフ防衛能力とは、ちょっとビックリするような内容と思える。

スタンド・オフ・ミサイルについては、「12 式地対艦誘導弾能力向上型（地発型・艦発型・空発型）」、「島嶼防衛用高速滑空弾」、「極超音速誘導弾（音速の5倍以上）」、「島嶼防衛用新対艦誘導弾」などを挙げ、それらの研究・量産についての記述がある（図1参照）。

「無人アセット防衛能力」については、「無人アセットは**革新的なゲームチェンジャー**である

とともに、**人的損耗を局限しつつ、空中・水上・海中等で非対称的に優勢を獲得可能。長期連続運用などの各種制約を克服して、隙のない警戒監視態勢などを構築することが重要。**航空機、艦艇、車両の各分野における無人アセットの早期取得・運用開始が必要（赤字は原文に做った）」と述べている。「ゲームチェンジャー」は「大きく変える」というような意味、「非対称的に優勢」とは敵との関係性を言っているのだろうか。どうも回りくどい文章だ。「警戒、監視、情報収集、攻撃、輸送などに供し得る無人機の整備」ともあるから、この方がまだわかりやすい。

「領域横断作戦能力」では、「陸海空領域に加え、**宇宙**（衛星の活用による情報収集機能の強化等）、**サイバー**（セキュリティ対策の強化、サイバー要員の育成等）、**電磁波**（電子戦能力、電磁波管理機能の強化等）などの**組合せにより非対称的に優勢を確保**していくため、抜本的な能力強化が必要」として、宇宙領域を活用した情報収集能力等の強化、宇宙領域把握（SDA）の強化、宇宙利用における抗たん性の強化などを訴えている。

まだ他にもあるが省略。拙稿は不十分の記述だが、「防衛概算要求」を見ていると、ある程度の防衛力は抑止力として必要としても、際限の無い軍拡競争のロジックに入っているような気がしてならない。軍事力の強化の競争には終わりが無いし、専守防衛は増々薄れる。概算要求としても辟易とするが、このままでは軍事大国になるのは明らかだ。これで良いのだろうか。

それに、「隊員の安全を可能な限り確保」「人的損耗を局限しつつ」という言葉も気になる。あたかも「安全に戦う」と言っているようだが「安全な戦争」なんてあり得ない。

防衛省の概算要求だから、原発をどう守るか、平和外交をどう強く進めるかなどの話はないが、武力には武力で対抗というのは威勢はいいが平和維持には向かない。

国レベルの話として文化交流なども含めて平和外交が必要だ。戦争になっても何も解決しない。

（2022年9月11日）

名称・射程	概要
12式地对艦誘導弾能力向上型 約900キロ以上	国産で地上発射型や艦艇、戦闘機搭載型も開発中。地上発射型は2026年度配備目指す。対地攻撃機能を加える構想も
島しょ防衛用高速滑空弾 約400キロ以上	国産で開発する地对地ミサイル。26年度配備目指す。高高度を飛び、迎撃が困難
極超音速誘導弾 不明	国産で研究開発中。実用化の時期は未定。音速の5倍以上で飛び、迎撃が困難
JSM 約500キロ	ノルウェー製の空対艦、空対地ミサイル。納入され次第、戦闘機F35に搭載予定
JASSM 約900キロ	米国製の空対地ミサイル。23年度に初めて取得費が計上され、戦闘機F15に搭載予定

※イメージ図は防衛省提供。射程は取材などを基に推定
敵基地攻撃能力への転用が想定される
主なスタンド・オフ・ミサイル

図1. スタンド・オフ・ミサイルの種類（東京新聞）

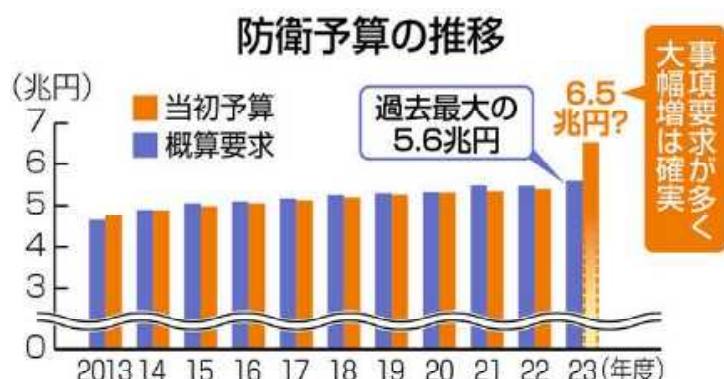


図2. 防衛予算の推移（東京新聞）